

## 「2015年ベトナム社会科学院・ハノイ国家大学 SEND プログラム参加報告書」

京都大学農学研究科2年 坂井あんず

昨年春に行われたインドネシア大学 SEND プログラムに続いて、今回はベトナム社会科学院・ハノイ国家大学において2度目の SEND プログラムに参加させていただきました。本プログラムの内容としては、ハノイ国家大学の外国語大学・人文社会科学大学でそれぞれ1週間ずつ日本語学科の授業に参加させていただき、また週に1度社会科学院でベトナムの歴史などに関する特別講義を受講する、そして最終日に現地学生に向けて日本とベトナムの比較をテーマとしたプレゼンテーションを行う、といったものでした。

日本語学科の授業参加では、学年によって様々な内容がありました。例えば、現地学生の日本語の発音のチェックから、ベトナム語⇄日本語の通訳の練習、話し言葉から書き言葉への書き換え、日本人の感性についての紹介など、中には日本人の私たちにとっても難しいと感じてしまうような内容まで勉強されていました。授業の中では私たちが普段無意識的に使用している言葉や考えが多く取り上げられましたが、現地学生の「どうしてそう感じるの？どうしてそう言うの？」といった質問に対してその理由を考え説明することで、私たちがこう思うのはこのような考えが根底にあるからなのだと改めて気付くことも多々ありました。日本や日本人が広く持つ感性についてさらに深く理解できたと感じますし、文化による考え方の違いを認識することもできました。

最終日のプレゼンテーションでは、私たちのグループは「日本の漫画文化」について紹介しました。その参考として、漫画についてどう思っているかという話を2週間現地学生の方々にたくさんお聞きしたのですが、ほとんどの方が日本の漫画を読んだことがある・とても好きだとおっしゃっていました。文庫本で読んだり、テレビアニメで見たり、インターネットで見たりすることは一般的になっているようです。日本で生まれたものが海外でこれほど楽しまれているということを知り、とても嬉しく感じました。「日本の漫画の歴史」と「日本とベトナムの漫画文化の現状の比較」を主な内容としましたが、歴史について初めて知ることや、日本の漫画文化について改めて気付いたことなども多々あり、準備をする中でも新しい発見がたくさんありました。

また、プレゼンテーションを作っていく中でとても難しいと感じた点があります。それは、表現の方法です。日本人同士だと、分かってくれるだろうと期待し言葉や説明を省略してしまうことも多くありますが、今回はこの表現で伝わるか、どのような構成だと分かりやすいか、興味をもってもらえるか、といったことを細かく考慮しました。これらはプレゼンテーションだけでなく、授業参加や普段の会話でも常に感じていたことなのですが、普段から意識しておきたいと思う点でした。

今回2度目の SEND プログラム参加でしたが、前回に引き続きたくさんの現地の方々と交流することができ、とても楽しくとても実りのある2週間となりました。来年度から就職する私にとって、学生最後の年に本プログラムへ参加できたことは大変貴重な経験です。

ベトナムは、今後さらに発展していくという力を非常に強く感じる国でした。私も大きな目標を持って勉強に励むベトナムの大学生に負けたくないよう、成長していきたいと思えます。